はなしのたね

hanashi no tane

vol.10

「何か出てる」のはなし。

アスリートがよく「ゾーンに入る」という表現をします。「超集中力」なんて言い方もしますね。周りの景色や音が意識の外に排除され、自分の感覚だけが研ぎ澄まされる、特殊な意識状態のことを指します。この状態になると当然のことながらパフォーマンスが向上するので、自らの意思でゾーンを操れたらどんなに素晴らしいことか。「今から俺、ゾーン入るから」・・・カッコいいですよね。

この「ゾーン」ですが、何も人間の行動だけに限った話ではないと思います。例えば私が「ゾーン」を感じるのは料理です。何でか分からないけど美味い料理ってあるじゃないですか。別に高級でもなければ一流料理人が作ったわけでもない。でもとにかく美味い、何回食べても飽きない、そんな料理は誰しも一つはあるのではないでしょうか。おふくろの味、というのもこの一種だと思います。オカンが家族のために毎日一生懸命作ってくれた料理には他の料理とは違う何かが宿っていたとしても何ら不思議ではありません。ただの好みの問題だろ、と言われたらそれまでかもしれませんよ。でもそれって無粋な話ですよね。値段とか食材とか星の数とか、そういうものでは計れない奥深さが料理にはある。それを感じ取れない人が居るとしたらとても気の毒です。

この"ゾーンに入っている(と思われる)料理"に対して私は「何か出てる」と表現しています。何か、って何やねんという話ですよね。その通りです。私自身、その何かが何なのか分かりません。でも絶対に「味とか彩りではない何か」を感じる料理があるのです。そしてそういう料理は漏れなく美味い。小っちゃくて汚い店なのにめちゃくちゃ繁盛している店はこのパターンです。そういう店の料理を食べると「うわ〜、何か出てるパターンやぁ」と思います。食レポならアウトですよね・・・。その何かを言えや！って話ですし、何か出てるって表現もちょっと不潔な感じに聞こえます。我ながら不細工な表現だと思いますが、でもすごくしっくりくるんです。

実はこの「何か」について、少しだけその正体を掴みかけています。それは「積み重ね」じゃないのかなと思うのです。個人的な好みの問題もあるでしょうが、何かオシャレなカフェとかイキった雰囲気の店の料理で「何か出てる」とはなりません。あるじゃないですか、料理より外観とか内装にこだわってます、みたいな店。雰囲気込みで誤魔化してるというか、こういう雰囲気の中で食べる料理は美味しい、と錯覚させてるだけの店。そこに無いのは「積み重ね」です。ただ流行りのインテリアや食器にこだわったところで、それは一過性のものでしかない。いつの時代も料理屋さんが評価されるのは味です。美味しい料理で人々を楽しませる、ということを積み重ねることで結果的に「何か出る」のではないかと思うのです。これはアスリートも同じです。いくらゾーンに入ったところで、練習以上のものは出ません。「ひたすら積み重ねた練習通りの動きが自然とできる状態」こそが「ゾーン」だと思います。

でもやっぱり料理に対して「何か出てる」って表現はよろしくないですね。他にいい表現ないかな。

「積み重ね汁」・・・うーん、もっと他に美しい表現はないものか・・・。

Special thanks to (N)

アタマの体操・脳トレ編

脳を活性化しアンチエイジングに最適です。
お役立て下さい。

問題 1 それぞれ並び替えて有名人の名前にしてください

- まさとはだまし
- よいこみずきこう
- すうがくのわけありゅた

問題 2 漢字の部首だけで元の四字熟語を当ててください

一歩一歩

はなしのたね vol.9の答え

問題1
B
(他は「へ」「め」「た」と組み合わせると平成、明治、大正)

問題2 四面楚歌

〈ヒント〉問題① 芸人・女優(元アイドル)・文豪、問題② これはノーヒントで